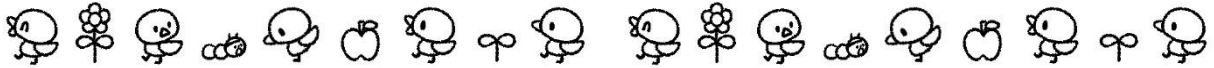




令和7年度
 子ども発達支援センター通信
 ひまわり TEL 65-5967
 たんぽぽ TEL 82-3116



今年度も残りわずかになりましたね。1年が本当にあつという間に過ぎていくような気がします。12月頃より順次支援会議や引継ぎ会をさせて頂いておりますが、子どもさんの今の姿を園、学校、家庭、センターとで話し合うことができ、貴重な時間となりました。お忙しい中お時間を作って頂きありがとうございました。どのお子さんも、たくさんの変化や成長を感じられ、嬉しく思いました。



今回のテーマ「気づいたらできていた！をめざして」

子どもの感覚面・運動面の悩みを解決するために、支援センターで遊びを提案するのは、遊びは楽しく興味を持ってできるからです。楽しみながら体を使い、学ぶことができれば、運動などに苦手意識がある子も、すくすく成長できます。

子どもと関わる時のポイント



🌸 夢中になって遊んでいるうちに感覚が育つ

体を動かすことに苦手意識を持っている子でも、好きな遊びには意欲的に取り組みます。「やってみたい」という気持ちが苦手意識を上回るからです。遊びのなかでは、日頃触りたがらないものにも興味をもって触れたりします。興味を活用することがひとつのポイントです。

例えば

数字が好きな子なら手先の練習に数字の形のはめ板が活用できます。手探り遊びをしているうちに触覚が発達し、指先の器用さにつながります。

自己有能感を育む

自信は、ほかの子との比較で身についた場合、やがて優越感になったり、逆に劣等感に感じる場合があります。「あの子より上手だね！」という褒め方では、自信と一緒に優越感が育ってしまうこともあるので気を付けたいですね。

🌸 子どもが自分で自分をはげませるように

自己有能感は、ひらたく言えば「生まれてきてよかった」と思える気持ちのことです。その気持ちが人間のあらゆる行動や成長の下支えとなります。自分の価値を理解しているからこそ、失敗しても自分を励ますことができ、継続的に挑戦できるのです。大人は結果を褒める以上に『子どもの努力の過程』を励ましましょう。そうするうちに自己肯定的な子になり、少くく失敗しても立ち直れるように育っていきます。

🌸 親は楽しく育てる



親も楽しむ余裕をもつ

子育てにはお金と時間がかかり、その上気力と体力も必要です。親といっても一人の人間ですからあまり負担になりすぎないよう、専門家や理解者を探しその人たちと連携して自分にできることをしていけば良いのです。自分自身も楽しんで生活できるようにしていきましょう。

子ども時代を振り返る

幼いころ自分がどう育てられたか振り返ってみましょう。思いやりを持って育てられた子は人を思いやる気持ちが育ちます。それを意識しながら自分がしてほしくなかったことを思い出すなどして自分らしい育て方をしましょう。

「発達障害の子の感覚遊び運動遊び」を参考にさせていただきました。